

平成17年度『手づくり郷土賞』^{ふるさと}

近年、全国各地において、その地域に固有の自然や歴史、伝統、文化に根ざし、地域の個性、独自性を活かした地域づくりの試みが活発化しています。こうした試みは、地域の持つ「よさ」を再認識し、より魅力ある地域づくりをめざして行われるものであり、地域の方々の積極的な参画が得られているケースも多くみられます。

「手づくり郷土賞」は、このような状況を踏まえ、地域の個性、魅力を創出している各種の良質な社会資本を広く募集、発掘し、これを世に広く紹介することにより、このような社会資本整備にあたっての創意・工夫・努力を促し、ゆとりとうるおいのある個性的な地域づくりの一助とすることを目的として、昭和61年度に創設された国土交通大臣表彰制度であり、今年度は20回目になります。

近年の社会情勢等を踏まえると、多様な主体の参加と連携による地域づくりを一層推進するとともに、地域づくり活動の意欲を増進することが必要となっています。そのため、国土交通省では、平成13年度から、社会資本と関わりを持ちつつ、地域の個性、魅力、活力を創出している、地域における民間を含めた良質な活動についても表彰することとし、良質な社会資本を表彰する〔地域整備部門〕と、社会資本と関わりを持つ良質な活動を表彰する〔地域活動部門〕の2部門で実施しています。また、今年度からは、「手づくり郷土賞」を受賞してから10年以上にわたって地域の魅力を創出し、または地域のシンボルとなっている各種の良質な社会資本を選定する〔大賞部門〕を創設しました。

今年度は、全国各地から〔地域整備部門〕14件、〔地域活動部門〕19件、〔大賞部門〕78件、合計111件の応募があり、そのうち〔地域整備部門〕8件、〔地域活動部門〕12件、〔大賞部門〕37件、合計57件が選定されました。

北海道からは〔地域整備部門〕に旭川市の「旭川市旭山動物園」、〔地域活動部門〕にニセコ町から推薦された「ニセコ花フェスタ綺羅街道」(活動主体:ニセコ21世紀まちづくり実行委員会)、〔大賞部門〕に京極町の「ふきだし公園」と虻田町の「湖畔通り」が選定されました。

認定証伝達式が、12月14日旭川市、19日虻田町、ニセコ町、京極町で行われ、選定された物件の所在する市町村または活動主体に対し、茅沼茂實北海道開発局次長から認定証が、佐々木寛北海道開発協会常務理事からは記念品が手渡されました。

旭川市旭山動物園

【地域整備部門】

旭川市

旭山動物園は、日本最北の動物園として昭和42年に開園しました。市民の憩いの場として親しまれたが、昭和58年をピークに入園者数が激減しました。しかし、職員のアイデアと根強い動物園ファンの市民に支えられ、再生を果たしました。

動物園の再生に向けて、どうしたら動物たちの魅力を伝えられるか。スタッフがアイデアを出し合



あざらし館の円柱水槽



間近で見ることができるほっきょくぐま館

い議論しました。その結果、動物たちが暮らしていた環境により近い状況を再現することで、本来持っている能力を発揮させ、生き生きとした姿を伝えられることに成功しました。生命の躍動感が伝わるように、動物中心に工夫したこの展示方法を「行動展示」と名付けて施設整備を始めました。平成8年、親子がヤギやウサギと直接触れあえる「こども牧場」の建設に始まり、巨大な鳥かごを作り人間が中に入って鳥たちを観察する「ととりの村」、「もうじゅう館」「さる山」「ペンギん館」など既成概念に捕らわれない独創的な施設整備を行いました。円柱水槽を上下に自由に泳ぐアザラシ、まるで空を飛んでいるかのように水中トンネルのまわりを泳ぐペンギンなど、動物本来の姿が見られると大好評です。

職員自らの手作り看板や担当飼育スタッフによる「ワンポイントガイド」、動物たちのエサの時間「もぐもぐタイム」などの取り組みも施設の魅力向上に貢献しています。また、学校への出張授業や体験学習などを通じて、子供たちへ「生命」の大切さを伝える活動も行っています。



ペンギん館の水中トンネル

ニセコ花フェスタ^{きら}綺羅街道

(活動主体：ニセコ21世紀まちづくり実行委員会)

【地域活動部門】

ニセコ町



オープンカフェ



花フェスタ事業は、平成13年度に完成した道道岩内洞爺線のニセコ市街地部分（通称「綺羅街道」）を舞台として、毎年7月から9月までの3ヶ月間、沿道を花で彩り各種イベントを開催しています。

この事業の目的は、単に花や緑で美しくまちを飾ろうということではなく、にぎわい空間の創出を通じて、地域コミュニティの再生と地域産業間の連携強化を目指しています。この活動を通じて、住民一人ひとりが明確な役割分担と責任感を持ち、積極的にまちづくり活動に参加することが可能になりました。また、様々な立場の住民が参加することで、各産業間の連帯はもとより、新しいコミュニティの創出など、地域住民の連帯から



花いっぱいの綺羅街道

生まれる多様で新しい地域振興が芽生えています。

ニセコ21世紀まちづくり実行委員会は、町民135名で構成され、町内会、商工会青年部・女性部、ニセコ高校、フリーマーケット実行委員会などの支援を受けて各種活動を行っています。

また、同会は先日、NPO法人格の取得申請が認定され、「NPO法人ニセコまちづくりフォーラム」となりました。今後はNPO法人として、さらなる住民主体のまちづくりと地域振興の実現に向け、活躍が期待されています。

ふきだし公園

【大賞部門】

京極町



湧水口のにぎわい



ふきだし湧水で流しそめん

ふきだし公園は、京極町の市街地から歩いて10分ほどの場所に位置し、原生林を活かして整備されています。とうとう湧水が湧き出る湧水地は、開拓当初より聖なる場所と崇められ、地域の人々の手によって大切に守られてきました。昭和60年、環境庁（現・環境省）の名水百選認定を契機に、本格的な公園として整備が始まりました。整備は、平成5年度まで続けられ、コンビネーション遊具、三角ステージ等を持つ総合公園になりました。

公園内の湧水口から湧き出る「ふきだし湧水」は、蝦夷富士とも呼ばれる羊蹄山に降った雨や雪が数十年の歳月をかけて地下に浸透し、京極のこの地で湧き出した湧水です。水温は、冬も夏も6.5℃

前後という冷たさで、水量は1日約8万トン。これは、30万人分の生活用水に匹敵します。

観光客が、年々増加するにつれて、高齢者や障がい者の割合が急激に増え、より優しい環境整備が必要になりました。そこで、下池より湧水口までの園路を舗装しバリアフリー化して、車椅子の障がい者が単独で湧水口まで行くことを可能としました。環境整備にあたり、高齢者や障がい者を含む家族連れの絆や触れ合いを考慮して整備を行い、全ての観光客がふきだし公園の自然を満喫できるように整備を行っています。



バリアフリー化された園路

湖畔通り

【大賞部門】

虻田町



湖畔通り



湖畔通りの夏まつり

湖畔通りは、北海道を代表する観光地である洞爺湖畔沿いの遊歩道です。洞爺湖温泉を訪れる観光客の散策路として利用され、近年は台湾、香港など東南アジアの外国人観光客も多く訪れています。各種イベントの会場としても利用され、ロングラン花火大会、洞爺湖マラソン、北海道ツーデーマーチなどが毎年開催されています。また、洞爺湖畔の3町村が人と自然がふれ合う野外彫刻公園として整備した「洞爺湖ぐるっと彫刻公園」の一部として、58基の彫刻のうち20基が設置されています。

平成12年の有珠山噴火により大きな被害を受けましたが、地域住民やボランティアの努力により復旧しました。以前の活気を取り戻すべく、平成15年に源泉100%の足湯「洞龍の湯（とうろんのゆ）」を設置しました。足湯に浸かりながら、洞爺湖の四季の眺めを堪能できると観光客に大人気です。その後、湖畔通り沿道に立地するホテルや旅館にも次々足湯や手湯が設置され、その数は14カ所になりました。スタンプラリーも開催され、足湯や手湯を回りながら、洞爺湖畔を満喫できます。



洞龍の湯（足湯）

平成17年度『手づくり郷土賞』に選定された全国の物件について
国土交通省ホームページでご覧いただけます。

http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha05/01/011128_.html